



現場から（最近のニュースから）

何が一番大事か



インターネットで有名な、とある大学教授の「この壺は満杯か？」という話があるそうです。ブログで紹介してありました。その内容を簡単にまとめて紹介します。

ある大学であった授業で、教授は「クイズの時間だ」と言って、大きな壺を教壇に置き、その壺に教授は一つ一つ岩を詰めたそうです。岩で壺がいっぱいになると、教授は学生たちに尋ねました。「この壺は満杯か？」そのとき、生徒は「はい」と答えたのですが、教授は「本当かい？」と言いながら今度はバケツに入った砂利を出して、岩の詰まった壺に流し込み、ゆさゆさと壺を振って隙間を埋めていきました。教授は再び学生たちに尋ねました。「この壺は満杯か？」一人の学生が「たぶん違う」と答えたら、教授は笑いながら「そうだ」と言い、今度は砂の入ったバケツを取り出して岩と砂利の詰まった壺に、その砂をさらさらと流しこみました。教授は再び質問します。「この壺は満杯か？」今度は生徒たちは声を揃えて「いや」と答えました。すると教授は水差しを取り出して岩と砂利と砂の詰まった壺に水を流し込んでいきました。壺の縁までなみなみと水を注いだ後に生徒たちに最後の質問を投げかけました。そして、「僕が何を言いたいのかわかるだろうか？」と問うたそうです。

最後に教授が言ったのは、「この例が私たちに示してくれる真実は、大きな岩を先に入れない限り、それが入る余地はその後二度とないということなんだ。君たちにとって『大きな岩とはなんだろう』それは志であったり、愛する人であったり、仕事であったり、家庭であったり、自分の夢であったり。ここで言う大きな岩とは君たちにとって一番大事なものだ。それを最初に壺の中に入れてなさい。さもないと君たちはそれを永遠に失うことになる。もし君たちが小さな砂利や砂、つまり自分にとって重要性の低いものから壺を満たしていけば、君たちの人生は重要でない『何か』に満たされたものになるだろう。そして大きな岩、つまり自分にとって一番大事なものに割く時間を失い、その結果、それ自体を失うだろう」（2月14日ぎゅってWeb<ある大学教授の「この壺は満杯か？」の話に学ぶ人生で大切なこと>より）

優先順位のことを語られたということでしょう。ブログを書いた人は、「家族」が一番大事なので、家族を優先して自分の価値観を整理した時に、仕事や趣味やその他に使う時間との優先順位がクリアになったと書いてあります。みなさんにとって一番大事なことは何でしょうか。それを一番にして、その後で、あとのことを満たすようにすれば良いということでしょう。壺の場合はそうでしょうが、人生はほんとうにそうなのでしょうか。なにか心配事があると、そのことで頭がいっぱいで、どんなに良いことが目の前にあっても見過ごします。心配しないでおこうとしても、無理なのが人間です。では、優先順位を確かにしていたら、そのようなことはないのでしょうか。どんなに家族が一番だといっても、自分の身に危険が来たとき、やはり自分が一番に反応するのが当然でしょう。人間はどんなに決意しても、思ったとおりにはできません。たとえできても、自分が一番大事だと思っていることが、他の人に通じなかったり、他の人の一番大事なこととぶつかるとき、争いになるしかないのです。これらすべて、人間がどんなものなのかを知らないことです。人間は壺ではありません。では、どんな存在なのでしょうか。それについてまず知れば、優先順位は自然に出て来ます。優先順位を決める前に、あなた自身について考えてみませんか。



救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故にあり、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になりつつあります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になる、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快樂に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをし、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれていくし、隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぽっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

なぜこうなったのでしょうか。



それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出すことができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。



神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス・キリストです。イエス・キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してください(ローマ5:8)、私たちを苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち砕いて勝利なさいました(1ヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス・キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。



もうこれ以上、苦しみの人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス・キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス・キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の神様として受け入れます。私の罪を赦してください、私を救ってくださいましたことを感謝いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン」

相談のある方は、いつでも連絡ください